

NCGM PRESS

National Center for Global Health and Medicine



アメリカ『Newsweek』誌が選ぶ「World's Best Hospitals2023」にランキング入りしました

▶ CONTENTS

- MEDICAL PRACTICE 消化器内科のご案内
- 医療の現場 内視鏡センター
- 2023年 新任医師のご紹介
- NCGM NEWS 「World's Best Hospitals2023」国内5位に選抜



2023年度の初めに当たり、ご挨拶申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症は小康状態を保ち、5月8日からは第5類感染症になりました。NCGMはこれまで以上に高度で安全な医療を患者さんに提供し、地域医療に貢献してまいります。診療連携登録医の皆様におかれましても、引き続きNCGMとの連携を継続していただき、さらにその連携を深化することによって、お互いにWin-Winな関係を構築できれば幸いです。

国立国際医療研究センター病院
病院長

杉山温人 Haruhiro Sugiyama



広報担当副院長の丸岡 豊です。

新年度を迎え、新任の先生のご挨拶のほか、消化器内科と内視鏡室センターを特集いたしました。私たち NCGM の総合力は多くの医師以外のスタッフの協力で成り立っています。今回はそこで働く消化器内視鏡技師さんの仕事にスポットを当ててみました。昨年コロナ禍での中断を経て復活した NCGM press ですが、これからは3か月に1号の割合で皆様にお届けしたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

国立国際医療研究センター病院
副院長

丸岡 豊 Yutaka Maruoka

●国立国際医療研究センター病院最大の診療科

消化器内科

本院でもっとも規模の大きな診療科であるとともに、迅速な緊急対応が可能な体制で、医療に臨む。専門性の高い診断や治療を行ないつつ、若手の育成にも注力する。

当院消化器内科の特徴と体制

消化器内科では、消化管や肝・胆・脾の病気を扱っています。消化器の病気を治療すること以外にも、他の病気の治療中に消化器の症状や病気がでた場合にも治療を行います。当院では人間ドックを含め年間およそ1万件の内視鏡検査・治療を行っています。消化器内科には50〜60名の患者さんが入院されており、当院では一番大きな診療科です。そんな当科には2つの特徴があります。まずは、救急対応を得意とする点です。消化器内科ではいろいろな病気を扱っているという話をしましたが、その中で緊急内視鏡治療が必要となる病気があります。その1つとして消化管出血が挙げられます。吐血、下血や血便などの明らかな症状があり、食道静脈瘤、胃・十二指腸潰瘍、大腸の憩室出血などが原因であることが多く、出血が止まらない場合は、緊急での内視鏡治療や輸血が必要となります。また、胆石の治療も同様で、腹痛や黄疸の症状がでて、緊急で受診されることが多い病気です。痛みが良くならない場合や、重症の感染症を起こして

いる場合は緊急の内視鏡治療が必要となります。休日や夜間では、内視鏡治療が必要な患者さんを受け入れる体制がとれていない病院も多いのですが、当院では救急科との連携もあり、いつでも緊急内視鏡を行える体制を敷いています。

もう1つの特徴は、当院は各疾患の専門医が揃っている点です。消化器内科医は、全般的な診療が行えますが、消化管の内視鏡治療、胆脾の内視鏡治療、肝がんの経皮治療などのそれぞれ専門の教育やトレーニングを受けた専門の医師が中心となってチームで治療を行う体制としています。

消化器内科疾患で多い病気と治療

上部消化管にある食道、胃、十二指腸では、胃炎や逆流性食道炎、胃・十二指腸潰瘍、食道がんや胃がんがあります。下部消化管ですと、大腸ポリープや大腸がん、炎症性腸疾患などがあります。肝臓の場合では、肝炎、肝臓がんもありますし、脂肪肝でも治療が必要な場合があります。胆道の場合は、胆石、胆管炎や胆道がんなど、脾臓では、脾炎や脾がん、脾のう胞があります。



●消化器内科の医師。多様な疾患をノンストップで診療・治療



山本夏代●消化器内科診療科長（胆膵担当）

●消化器内科について話を聞いた山本医師。日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、医学博士

おくと数年後にがんになってしまった恐れがありますので、良性でも切除が必要です。患者さんのご年齢や基礎疾患にもよりますが、検査のときに同時に切除することもできます。食道・胃・大腸のがんは早期で発見できれば、外科で開腹手術を受けずに、内視鏡で治療することもできます。早期のがんが見つかった場合には、まず、専門医師による精密検査の内視鏡を行い、内視鏡で治療ができるかどうかを判断し、可能な場合は内視鏡を用いて切除します。その

場合は1週間ぐらいの入院が必要で

消化管のがんは早期発見がとても重要です。食道がんは飲酒や喫煙などの生活習慣が大きく関係しています。また胃がんはピロリ菌と関係があることが分かっていますので、ピロリ菌がいると言われた場合は除菌療法を受け、定期的な内視鏡検査をお勧めします。最近では区民検診などでも上部内視鏡検査を受けられる自治体が増えており、是非活用してみてください。

ここ数年の特徴としては胆管炎や胆管結石で入院される患者さんも増加傾向です。これらの疾患は突然の発熱や「胃の痛み」などで来院された方は胆石が原因の場合があり、休日や夜間でも緊急の内視鏡治療が必要となる場合があります。その他では胆管炎や黄疸に対する内視鏡治療、消化管出血に対する内視鏡治療、肝臓がんに対する経皮治療、重症膵炎や肝不全に対する集学的治療など、重症例や緊急の患者さんも積極的に治療を行っています。

また、消化器の進行がんに対する抗がん剤も様々な選択肢が増え

ています。進行がんが発見された患者さんについては、外科、内科で治療方針を相談した上で治療方針を決めます。手術が難しい状態で発見されたがんの治療だけでなく、外科手術を行う前後に抗がん剤の投与をする場合もあります。抗がん剤の専門の医師だけではなく、内視鏡専門医、緩和ケアの医師、看護師、心理療法士など多職種で患者さんをサポートし治療を行っています。

消化器内科の診療としての理想像

ひと昔前までは、消化器内科は病気の診断や検査が主な仕事で、治療は外科が行うことになっていました。現在は、消化器内科医が内視鏡を使用して治療を行う機会が増えました。内視鏡治療は「内視鏡手術」と呼ばれ、外科が手術をするのとまったく同じ姿勢で準備し、治療に臨んでいます。また、抗がん剤などの選択肢も増え、手術ができない患者さんの寿命も延びています。

これらのことをすべて行えるのが消化器内科の理想ですが、1人で達成することはできません。理想の治療を行うためには、知識を蓄え、常にアップデートすること、技術を持

このように、多種多様の病気の治療を行っています。治療をするこ

つことが重要です。そして、患者さんに伝えるように説明し、よく話を聞いていくことが重要だと思っています。そのためには、医師だけでなく看護師や、そのほかのメディカルチームでの診療を大切にしています。また、そのような医師を育てていくために、当科では若手医師への教育にも力を入れており、臨床の現場に一緒に入って教育指導を行っています。

消化器内科の疾患の予防

- ①健診を受けよう 胃がんや大腸がんの予防のため内視鏡検査、胃がんリスク検診、便潜血検査などを受けましょう。
- ②大腸カメラ（大腸内視鏡）をやろう 大腸がんは早期で見つければ治る病気です。便やおなかの調子に問題のある方は大腸カメラで診てもらいましょう。
- ③ピロリ菌はしっかり除菌しよう ピロリ菌がいるかもしれないといわれた方は保険で治療できます。
- ④食生活は気を付けよう 暴食を避け、規則正しい食生活を。
- ⑤アルコールは節度を持って アルコールの多飲は、肝臓や膵臓の病気の原因となります。
- ⑥禁煙！ 消化器のがんだけでなく多くのがんの原因となります。



●内視鏡センターのスタッフ。臨床検査技師・消化器内視鏡技師である佐藤真己技師（右）、奥山康博技師（左）

FEATURING

●医療の現場 Vol.2



内視鏡センター

内視鏡診療・治療全般を統括

機器類の知識を常にアップデートし、感染対策など表に出ない仕事も多い。当センターの理想は、さまざまな職種と専門家によるチーム医療の完成。今回、その中でも消化器内視鏡技師に着目した。



内視鏡センターでの消化器内視鏡技師業務

内視鏡センターでの消化器内視鏡技師業務は、大きく分けて3つあります。

1つ目は、内視鏡診療における介助業務です。内視鏡医が患者さんに内視鏡を入れている時に体内で出血している部分があったり、ポリープがあったりした場合、処置具を内視鏡の中に入れて、血を止めたり、ポリープを取ったりします。その際の処置具の操作をするのが、我々技師の仕事です。

また、介助業務には検査周りの仕事もあります。例えば、スコープの準備をしたり、道具を出したり片付けたり、患者さんに声掛けをしたり、背中をさすったり、案内をしたりというところまで含めて介助業務を行っています。

2つ目は、内視鏡機器やその周辺機器のメンテナンスです。

例えば内視鏡スコープの場合は、定期的な点検を行っています。患者さんに使う前に前点検を行ったり、故障がないかどうか、操作ができるかどうかの確認をしたりしています。ただ、定期点検や前点検を行っ

ていても、検査中に故障することもあります。その場合のトラブル対応も、私たち技師が行っています。当内視鏡センターの場合は、内視鏡部門システムと言われるものもあります。これは、医師が何を行っていたかを記録するレポート作成等を行うシステムです。このシステムの保守業務も行っています。

3つ目は、感染管理業務における内視鏡の洗浄履歴管理業務です。内視鏡のスコープは使い捨てではありません。洗浄をして、また次の患者さんに使用するため、感染が一番大きな問題になります。スコープは専用の洗浄機で洗い、消毒をして、次に使うまで清潔な状態で保管をします。その際、誰に使ったスコープを、誰がどのようにして洗い、消毒をして完了をしたか、ということを経済システム上に残しており、この関連付け業務を技師が行っています。

業務で一番気を遣っていること

安心安全な内視鏡診療の提供です。正しい知識、正確な技術、これらをもって内視鏡診療の介助業務や機器の保守業務、洗浄管理業務にあっています。

機械や処置具などは特殊な道具ですが、新しいものが次々と発表されるため、勉強会に積極的に参加しています。また洗浄方法・管理方法の新しい考え方が、学会から新たに推奨された場合は、その情報をすぐにアップデートして、現場に還元しています。

内視鏡センターならではの特徴と体制

当院は感染症の患者さんが多く受診されています。新型コロナウイルスもそうですが、普段の感染症対策も含めて、通常の内視鏡診療における感染管理の体制に力をいれています。

例えば、通常の検査の場合でも、完全防護の状態で行っています。



イラスト/えのきのこ

また、ゾーニングとによって、内視鏡センター内で汚いものが通っていい場所と、清潔なものが通る場所を区分けしています。例えば、使い終わったスコープは「不潔」扱いのため、汚い場所が通る場所をとって移動し、洗浄室に持っていきます。洗浄室も、決められた1か所だけで洗浄を行うことを徹底しており、感染対策に力を入れているのが特徴です。

内視鏡センターの理想像

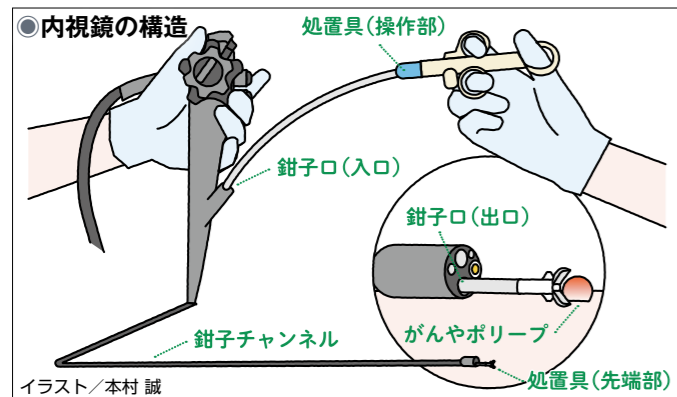
内視鏡センターのスタッフの1人

として理想に思うのは、最善のチーム医療を行うことです。内視鏡センター内には、消化器内科医、外科医、看護師、事務、外部の委託業者、技師など内視鏡診療に携わる職種が多岐にわたっています。これらの職種の人が、1つの方向に向かって、足りないところを補いつつ、1つのことを成し遂げる。みんなが協力して業務にあたるのが理想だと、私は思っています。

業務上での印象的な出来事

私は他の病院から赴任してきたのですが、当内視鏡センターの医師は特に物事に対して積極的に取り組んで下さっていると感じております。

例えば、検査が始まる前、検査が終わった後は、私たち技師が道具類の準備や片づけを行います。ですが、当内視鏡センターの医師は、指導する立場であっても、準備や片づけを率先して手伝ってくれるのです。こんなことは、他の病院ではありえないことでした。とても驚きましたし、恐縮する思いもあるのですが、大変感謝しています。だから私も、内視鏡センターの人たちのために、できることを返していきたいと思っています。



イラスト/本村 誠



●内視鏡検査では食道、胃、十二指腸、大腸の疾患を早期に発見することができる。特に「がん」の早期発見に非常に有効。また当院では、機器を清潔に保つ等、感染症対策にも心を配る



●右は内視鏡センターについて話を聞いた内視鏡センター所属臨床検査技師・消化器内視鏡技師でもある佐藤真己技師。中央は、最新のOLYMPUS内視鏡システム「EVIS X1」。上は患者の側からも視認できるモニター



「World's Best Hospitals2023」にランクイン!

「World's Best Hospitals2023」(Newsweek 誌)のランキングで当院がTOP250の上位に選出されました。

当院の実力と取り組みが評価されました

「The World's Best Hospitals2023」はNewsweek 誌による世界 28 か国の医療機関を対象にしたランキングで、80,000 人以上の医療専門家へのオンライン調査や保険会社によるアンケート調査、公的情報源からの品質調査より算出されています。

NCGMではTOP250中73位(日本国内では5位)となりました。

▶「WORLD'S BEST HOSPITAL 2023」Newsweek USより (<https://www.newsweek.com/rankings/worlds-best-hospitals-2023/japan>)



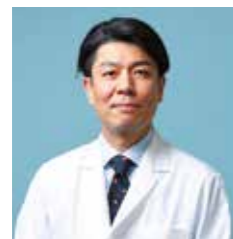
リトリートカンファレンス再開のお知らせ (医療関係者限定配信)

リトリート (retreat) とは一步引き下がって見つめ直すという意味です。当院では平成 14 年 7 月より、「リトリートカンファレンス」を月 1 回定期的 (第 3 週水曜日 18:30 ~ 20:00) に行っていました。他の同僚の仕事の話を聞き、自分の仕事へのアイデアにしたり、あるいは発表者にコメントをしてお互いに興味を高めることを目的としています。

本カンファレンスで取り上げられる話題は、専門分野に極端に偏ることなく、難しい内容も論理的かつ判りやすく、誰にでも理解できるようなプレゼンテーションになるように工夫しており、

温故知新、気楽にかつ積極的に参加できるようなカンファレンスを目指しています。医療関係者限定となりますが、ご興味のある方はどうぞご参加ください。

新型コロナウイルス感染症の影響により令和 2 年より休会をしておりましたが、本年 9 月 20 日 (水) の 18:30 より再開する予定で、今後は年 3 回程度の開催を計画しています。テーマは現在選定中ですが、皆さまの知的好奇心を満足できるトピックスなどを中心に選定してまいります。詳細は H1P 等に掲載予定ですのでよろしくお願ひいたします。



●小児科診療科長
望月慎史 Shinji Mochizuki

皆さま、こんにちは。2023年4月より小児科診療科長を拝命いたしました望月慎史と申します。前任の七野浩之先生の後を引き継ぎ、地域医療への貢献と高度医療・研究の実践とを両輪とした当院の小児科診療をさらに発展させていくべく尽力いたします。



●心臓血管外科診療科長
井上信幸 Nobuyuki Inoue

この度心臓血管外科診療科長を拝命しました。平成 13 年に北里大学を卒業後、東京女子医科大学、東京大学の多くの関連施設、またドイツの中でも特に開胸術数が多い施設で修練する機会を得ました。その経験を活かし地域の診療拠点としての役割を担ってまいります。



●耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療科長
二藤隆春 Takaharu Nito

この度、当職を拝命いたしました。のど(咽喉)の疾患に対する外科的治療を専門としており、新設された音声・嚥下センター長を兼任いたします。治療法に複数の選択肢がある場合、それぞれの特徴を丁寧に説明し、納得していただいた上で治療を行ってまいります。



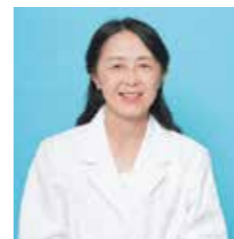
●脊椎外科診療科長
松林嘉孝 Yoshitaka Matsubayashi

多様化、高度化する脊椎疾患の治療に対応するため 2023 年 4 月に新設された脊椎外科に赴任致しました。脊椎に特化した最新の機器を導入することで、より安全で高度な治療を提供できる体制です。脊椎外科専門の医師 3 名で担当致しますので、お気軽にご相談下さい。



●関節外科診療科長
宮本恵成 Yoshinari Miyamoto

本年 4 月より新設されました、関節外科の診療科長を務めさせていただきます。人工関節と関節鏡手術を行っており、人工関節では患者さんに適したインプラントの選択を心掛けております。膝や股関節痛で手術を検討されている方を御紹介いただければ幸いです。



●麻酔科診療科長
山瀬裕美 Hiromi Yamase

この度麻酔科診療科長に着任いたしました山瀬裕美です。昨年までは虎の門病院で呼吸器疾患に対する麻酔管理を専門として参りました。患者さんの事を第一に考え、関係各部署と協力して手術麻酔管理にさらに尽力して参ります。よろしくお願ひ申し上げます。



●エイズ治療・研究開発センター治療科長
照屋勝治 Katsuji Teruya

このたび、臨床研究開発部長に就任いたしました。ACC は薬害 HIV 患者の救済医療はもちろん、日本全体の HIV 治療・研究・教育における中心的役割が求められており、その責任を改めて自覚して参ります。今後ともご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



●脳卒中センター長
井上雅人 Masato Inoue

4 月から着任いたしました井上と申します。脳卒中センターは医師、看護師、リハビリ療法士、薬剤師、栄養士、社会福祉士など多職種のスタッフが各自の専門性を発揮してチームとして診療を行っております。お困りのことがございましたらいつでもご相談ください。



●がん総合診療センター長
清水千佳子 Chikako Shimizu

専門家どうしの垣根が低い NCGM の文化を最大限生かし、患者中心の良質ながん医療・ケアを誰一人取り残さず受けていただけるよう、ご本人・ご家族と医療者、院内の多職種、地域、それぞれの対話の推進と環境の整備に取り組んでまいります。



●エイズ治療・研究開発センター長
潟永博之 Hiroyuki Gatanaga

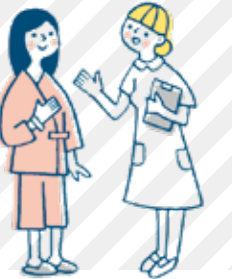
今年 4 月からエイズ治療・研究開発センター (ACC) のセンター長を岡慎一先生から引き継ぎました潟永でございます。ACC の任務は、HIV 感染者に対する包括的な診療を行い、予後の改善と長期にわたる患者の社会生活をサポートすることです。



新任医師ご挨拶

2023年4月期の新任ドクター

年度も新たになり、新任医師の体制が整いました。患者さんへのご挨拶と抱負を、ここに掲載いたします。



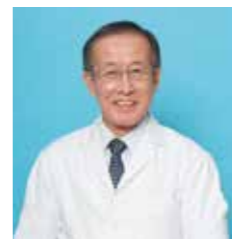
●副院長
宮崎英世 Hideyo Miyazaki

この度、医療安全および医療の質担当の副院長を拝命いたしました宮崎と申します。ますます高度になり複雑化する最新の医療をより安全に提供できるように病院全体で取り組んでまいりますのでよろしくお願ひ申し上げます。



●副院長
山田和彦 Kazuhiko Yamada

副院長を拝命した山田和彦です。手術、内視鏡、医療連携、救急、災害等を担当しております。消化器外科医で、食道外科を専門としております。慣れないことばかりですが、患者さんのために、地域のために、病院のために少しでも貢献できるように頑張ります。



●副院長
梶尾 裕 Hiroshi Kajio

3 年にわたるコロナ旋風もようやく落ち着きが見え、当センターでは専門的先進的な医療の提供のためにより良い体制づくりを進めています。先生方との連携をさらに強化し、よりよい医療を多くの患者さんに提供したいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



●副院長
丸岡 豊 Yutaka Maruoka

副院長の丸岡 豊です。専門は歯科口腔外科で、研究・医工連携・労務等に加え、昨年度に引き続き広報も担当いたします。皆様により多くのお役立ち情報をお届けし、NCGM へのご理解を深めていただけるよう精進いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。



医師からのご挨拶

■人間ドックセンターのご案内

長い歴史をもつ当人間ドックセンターは、その歴史と経験に基づき、お客様からの安心と信頼をいただいております。その期待にお応えできるよう全スタッフが心を込めてお迎えしております。施設内は広めのフロアでゆったりとしており、スムーズに検査を受けていただけることはもちろん、病院の専門診療科とも常に連携を取っており、ご病気が発見された際には、迅速に専門診療科へご紹介しております。

また当院の特徴として、胃と大腸の内視鏡検査が同日に行えるコースや専門診療科とタイアップしたコース、PET-CT 検査などの様々なオプション検査をご用意しており、皆さまの生活習慣や既往歴などに合わせて、ご自分でご自由にお選びいただけます。日帰りコースだけではなく、ご宿泊コースもをご用意しており、お部屋からの夜景やお食事を楽しみながら、時間にゆとりをもって検査をお受けいただけます。



人間ドックセンター

ご寄付のお願い ～医学研究の発展と優れた人材の育成のために

当センターは、センター病院・国府台病院という2つの診療拠点に加え、研究所・臨床研究センター・国際医療協力局および国立看護大学校を擁し、高度総合医療を提供するとともに、特に感染症・免疫疾患ならびに糖尿病・代謝性疾患に関する研究・診療を推進し、これらの疾患や医療の分野における国際協力に関する調査研究および人材育成を総合的に展開しております。

当センターの活動を推進し、使命を十分に果たすためには、その活動財源を安定的・多面的に確保することが必要不可欠です。課せられたミッションを実現して国民の皆さまに成果を還元するための財源に関して、企業や個人の皆さまからの寄附によるご支援をお願いいたします。

何卒、当センターの寄附の趣旨にご理解頂き、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。



ご寄付のお願い

診療時間

- 外来診療時間 8:30～17:15
- 初診受付 8:30～11:00
(紹介状を必ずご持参ください)
- ※休診日や完全予約制を設けている診療科もありますので、必ずホームページをご覧ください。



外来のご案内

アクセス

- 地下鉄をご利用の方
都営地下鉄大江戸線 若松河田駅(河田口)から徒歩5分
東京メトロ東西線 早稲田駅(2番出口)から徒歩15分
- 都営バスをご利用の方
JR 大久保駅 又は 新大久保駅より都営バス新橋行、
JR 新宿駅西口より都営バス医療センター経由女子医大行
「国立国際医療センター前」下車

